

2:1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。2:2 これは、クレオパがシリアの総督であったときの最初の住民登録であった。2:3 それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った。2:4 ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、2:5 身重になっているいなずけの妻マリヤもいっしょに登録するためであった。2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、2:7 男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。2:8 さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。2:11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」2:13 すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現れて、神を賛美して言った。2:14 「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」2:15 御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは互いに話し合った。「さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見て来よう。」2:16 そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼葉おけに寝ておられるみどりごとを捜し当てた。2:17 それを見たとき、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせた。2:18 それを聞いた人たちはみな、羊飼いの話したことに驚いた。2:19 しかしマリヤは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。2:20 羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

導入

今日はクリスマスです。医者であるルカが目から見たクリスマスのシリーズの学びは今日で最終回です。

これまでは、御使いガブリエルによるイエスの誕生の告知と、マリヤの革命的な歌に注目してきました。マリヤの歌では、マリヤの赤ちゃんが大きくなってどのような人となり何をするのかが歌われていました。

そして、ついにイエスのご降誕とそれを取り巻く状況が語られます。

その前に、マリヤの歌とイエスの誕生の話の間に登場する聖書箇所について手短かに説明しましょう。

ルカは、イエスの誕生とともにもうひとりの重要な赤ちゃんの誕生を取り上げておくべきと考えました。

その赤ちゃんは、エリサベツの子です。マリヤの親類、ザカリヤの妻エリサベツです。

エリサベツとザカリヤは、息子が与えられるようにずっと祈ってきましたが、それは実現しませんでした。

しかし、ザカリヤが神殿で香をたいていたときに、御使いガブリエルが現れて、妻エリサベツが男の子を生むと告げました。

その子は主の御前にすぐれた者となり、イエスのために道を備える人となります。

ザカリヤは御使いの言ったことを信じられず、証拠を求めました。

すると、御使いは、子どもが生まれるまでザカリヤが話せなくなるようにしました。

ユダヤの習慣では、男の赤ちゃんは生後 8 日目に割礼を受けます。

そのときに、子どもの名前が決まります。

通常は、子どもは父親の名前を受け継ぎます。

けれども、母親のエリサベツはその子をヨハネと呼ばなければならないと強く主張しました。

子どもの父親はまだ話ができない状態でしたが、書き板にヨハネと書いて、その名前でよいと確認しました。

するとすぐに、ザカリヤの口が元通りになって話せるようになりました。

この出来事に皆が驚いて、ヨハネと呼ばれるこの赤ちゃんは神の御前に特別な人になるだろうと感じました。

ザカリヤは聖霊に満たされて、賛美があふれ、預言しました。

76-79 節は、この子どもについて語っています。

息子について語っているのは、おもに次の 3 つのことです。

1. 息子が偉大な預言者となること。(76 節)
2. イエスの道を備えること。(76 節)
3. 罪の赦しをとおして可能となる救いの道を明確に教えるようになること。この救いは、死の陰にすわる者たちに差し伸べられた光となります。(79 節)

ルカは、イエスの誕生がバプテスマのヨハネの誕生と並行して語られるべきと考えました。

その理由のひとつは、イザヤ書 40 : 3-5 にある預言がイエスの道を備えるヨハネの働きと合致する内容だからです。

すでに学んだとおり、ルカはイエスの生涯について完全な話を提供することを願っていますから、何も取りこぼさずに記録しています。ですから、私たちはルカの記した内容の重要性を見逃してはいけません。

ではこれらのことを念頭に、イエスの誕生の個所を学んでいきましょう。

イエスの誕生に関して、3 つの重要ポイントが挙げられます。

1. イエスの誕生した場所 (1-7 節)

マリヤとヨセフはナザレに住んでいたため、国の南部にあるベツレヘムは 100km 以上も離れた場所でした。

通常の場合なら、イエスはナザレで生まれていただでしょう。

しかし、神は御子の人生にご自身の目的を果たされました。

この出来事が起こる約 750 年前に、神は預言者ミカをとおして、ユダヤの救い主、イスラエルの支配者はベツレヘムで生まれると語られました。(ミカ 5 : 2)

もしイエスがベツレヘムで生まれていなければ、イスラエルの支配者と認められることはありません。

では、神はどのようにして、臨月を迎えた女性をはるばる旅に出させ、遠く離れたよその町で出産させられたのでしょうか。

簡単に言うと、当時の社会で絶大な権力者だった人物を用いて住民登録を命じさせられました。

これで、すべての人は故郷の町に行かなければならなくなります。

もしこれが「勅令」でなければ、臨月のマリヤがそれほど長い道のりを旅しようとは思わなかったのではないのでしょうか。

この出来事からも、世界史が人ではなく神に支配されていることがよくわかります。

この世の権力者がそうと気づかないうちに、神は彼らをご自身の目的のために用いることがおできになります。

イエスの誕生は奇跡の誕生でしたが、マリヤとヨセフの住むナザレではなくベツレヘムで生まれたことも、神の御手の奇跡によるのです。

適用

今日、このクリスマスの日、喜び祝うべき日です。この日に、神が今も世の中でご自身の目的を成就しておられることを思い、それが皆さんの励ましになることを願います。世界で起こるすべての出来事を大局的に見るならば、そこには主権者なる神がおられ、イエス・キリストの再臨に向けてすべてを備えておられるのです。

今日はイエスの最初の来臨を祝う日ですが、同時に自らに問いかけなければなりません。私たちはイエスの再臨に対する備えができていますでしょうか。

イエスの再臨を喜べるのは、イエスを受け入れ、自らの救い主としてイエスを愛する人たちだけです。

イエスとつながっている人は、イエスが戻ってこられて喜びます。

なぜクリスチャンがクリスマスを祝うのか知らない人もここにはおられるかもしれません。一言で言うなら、それは、その人たちの罪が赦され、創造主と和解し、死んだら天国に行けることを待ち望んでいるからです。

これは、神の聖霊がすべての神の子に与えてくださる希望であり確信です。

あなたがそれを望むなら、この希望と確信をクリスマスの今日、知ることができます。

2. 誕生の知らせ (8-14 節)

イエスの誕生は、フェイスブックやユダヤ新聞で知らされたものではありません。神に仕える御使いたちがその誕生を知らせました。

また、宗教指導者たちに知らされずに、身分の低い羊飼いたちに知らされました。

誰も羊飼いたちのことを良く思っていないでした。彼らが教会、つまり、当時の神殿に行かなかったからです。

しかし、彼らはとても働き者で、獣から羊を守る危険な仕事をしていました。

また、羊に毎日良い牧草を与えるために、常に移動していました。

神は、羊飼いのよいところを見てくださいました。

彼らは正直で働き者で、おそらくエルサレムの神殿でささげられるいけにえの子羊を提供していたのは彼らでしょう。

ここで重要なのは、御使いが羊飼いたちに伝えた内容です。

1. 御使いは、世界中すべての人に関係のある大きな喜びの知らせがあると言いました。
2. 御使いは、今日ベツレヘムで赤ちゃんが生まれ、その子は長らく待ち望まれたユダヤのメシヤで、救い主キリストとなると言いました。
3. 御使いは、布にくるまれた赤ちゃんがいる飼葉おけへと羊飼いたちを導きました。

誰かが羊飼いたちに突然現れてこれだけのことを語ったのは、ずいぶん衝撃的だったでしょう。

けれども、この出来事によって羊飼いたちはこの赤ちゃんが特別な人だと納得したのでしょう。

「すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現れて、神を賛美して言った。

2:14 『いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。』』と 13-14 節にあります。

どれほどドラマチックな光景だったでしょう。

暗い丘に突然強い光が差し、羊飼いたちが見たのは、天の軍勢が飼葉おけにいる赤ちゃんの誕生について神を賛美している姿でした。

御使いと天の軍勢は、この赤ちゃんがどれほど尊いお方か知っていました。

天の軍勢は、イエスが天におられたときからイエスを知っていましたし、イエスが地上に来られた目的も知っていたはずです。

イエスが天の栄光を離れ、人類を救う神のご計画を成就するために来られたことを知っていました。

天の軍勢は、イエスの使命を喜んでいました。それは、イエスが失われた罪人たちに救いをもたらし、神と人との間に平和をもたらすことを知っていたからです。

イエスが自分にとってどれほど尊いお方かを知ると、人は大いに喜びます。

クリスマスのは、イエスがあなたにとってどれほど尊いお方かを知るのに最適な日です。

今日、あなたも、あなたのたましいを救ってくださった神をほめたたえてはいかがでしょう。

ではここで、御使いの知らせをひも解いていきましょう。

第一に御使いが告げたのは、民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たということです。

クリスチャンの福音は、すべての人に向けられた喜びのメッセージです。

ここで、喜びという単語を理解することが重要です。
幸せは私たちを取り囲む状況に左右されます。しかし、喜びは、私たちの心やたましいの状態に左右されます。
たいていの人にとって、幸せかどうかは、お金や快適な家、良い仕事、健康、家族、友人といった外的要素に影響を受けます。
そういった要素を持つのは悪いことではありません。
しかし、健康もお金も仕事も家も家族も失ったら、きっと不幸だと感じるでしょう。
こういうわけで、御使いは「喜び」という単語を使ったのです。
喜びは、心の状態を示します。
御使いは、「救い主イエスは人々の心に喜びを与えることができる」と言っていたのです。
この喜びは、貧困や病気や家庭問題などに影響を受けません。この喜びは永遠のもので、決して奪われることはないのです。
クリスマスのメッセージが伝えるのは、私たちの心に永遠の「喜び」をもたらしてくれる「救い主」についてです。
この喜びは、イエスが必要であることを認め、イエスが罪を赦してくださると信じることで得られます。
40年近く前になりますが、私もこの喜びを自分のものにしました。そして、その喜びは今も心の中にあります。
私は祈ります。皆さんが罪を赦された喜びと、イエスのみで満ち足りる喜びを見出すことができますように。

次に御使いが告げたのは、この赤ちゃんは成長して救い主キリストとなる、ということです。
これはどういう意味でしょう。
まず、「救い主」とは、私たちを救いに来た人のことです。
ではなぜ私たちは救われなければならないのでしょうか。そして、何から救われなければならないのでしょうか。
聖書の教えることを簡単に言うと、聖書の神が私たちを創造なさったとき、ご自身とともにいるために100%聖なる存在として造られました。
人類の祖アダムとエバは、神に逆らい、全人類に罪をもたらしました。その不従順に対する罰が死なのです。

ローマ 5:12 そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。

ですから、私たちは神の怒りと永遠の死から救われなければなりません。
イエスは、私たちの罪の罰を自ら負うために来られました。イエスは私たちの身代わりのいけにえなのです。
イエスが来られたのは救い主となるためです。それは、私たちが神の罰を免れて、天国で永遠に神とともに過ごせるようになるためです。
天国で永遠をすごすときは、今の体ではなく、永遠にふさわしい復活の体を与えられます。
天国に罪はありませんから、いつか天国に行きたいと思うなら、私たちには救い主が必要です。
私たちが罪の罰から救ってくれる人が必要なのです。
しかし、そんな窮地に立たされていることに多くの人は気づいていません。
このクリスマス、皆さんが救い主の必要性を実感することができますように。

3. イエスの誕生の証拠 (15-20 節)

羊飼いたちは非常に劇的な出来事に遭遇し、その真相を自ら確かめようとしてきました。
飼葉おけの中に布にくるまれた赤ちゃんは本当にいるのでしょうか。
確かめる方法はただひとつです。実際にその町に行って自分たちの目で確認するのです。
丘にいる羊の番を誰かに任せて、ふたりくらいの羊飼いが代表でベツレヘムに行ったのかもしれませんが。そして、自分たちが体験した超自然現象が本当かどうか確かめようとしてきました。

みことばは、それが本当だったと語ります。

彼らはマリヤとヨセフと、飼い葉おけに眠る赤ちゃんを見つけました。

この後、羊飼いたちは自分たちが見聞きしたことに大喜びしたので、黙っていることができませんでした。

彼らは羊の世話をするために丘に戻る前に、その出来事を多くの人に伝えました。

羊飼いたちは、イエスが天国から特別な使命をもってやってこられたと信じる十分な証拠があると考えました。

イエスは、この世の救い主となるために来られたのです。

イエスの地上の人生については、同じ時代に起こったどんな歴史上の出来事よりも多くの証拠が残されていますが、それはあまり知られていません。

歴史上の出来事は、ある出来事が起こった時点からなるべく近い時期に記された文書によってその信ぴょう性をはかります。

イスラエルに住むイエスという名の男性が自身を神と主張し、多くの奇跡によってその主張を証明したというイエスの人生については、動かぬ証拠がそろっていて議論の余地はありません。

イエスは十字架にかけられ、死からよみがえって多くの人々に姿を現されました。500人の人たちの前に現れたことも記されています。

ここで皆さんにお尋ねします。あなたは、歴史上の人物イエスを信じますか。

イエスが神の怒りからあなたを救えると信じますか。そして、あなたが死ぬときに、永遠の救いを与えてくださると信じますか。

もしそう信じるなら、信仰を持って一歩踏み出しましょう。その一歩はあなたの人生を永遠に変えてくれます。

羊飼いたちは信じて、神を賛美しつつ家に帰りました。

イエスがあなた自身の罪のために死んでくださったと心に信じるなら、あなたもそうすることができます。

クリスマスは、救い主を祝う時です。この救い主が天国の栄光を離れて、罪で病んだ世界に来てくださったのはひとつの目的のためです。

それは、私たちが神の怒りから救い出すことです。

今日、救われたいと思ったら、会堂後方のリフトという看板のところまで来てください。係の者があなたといっしょにお祈りします。